

速報展

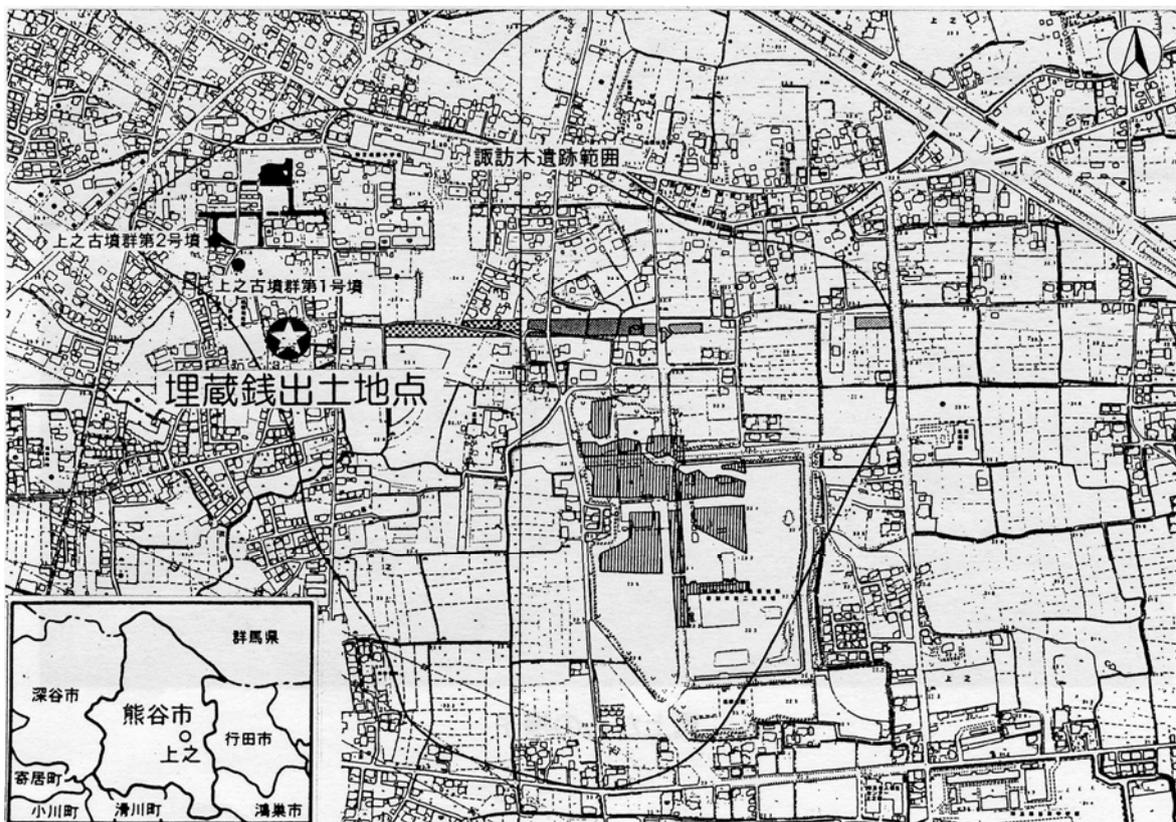
諏訪木遺跡出土埋蔵銭

諏訪木遺跡^{すわのきいせき}は、市内上之地区^{かみの}に所在し、これまでに計6回の発掘調査が行われています。平成20年度に実施した諏訪木遺跡の発掘調査では、室町時代^{むろまち}（約600年前）の「埋蔵銭^{まいそうせん}」が発見されました。

「埋蔵銭」とは、地中にお金^{こせん}（古銭）を埋めたもののことを呼びます。お金は97枚前後で1束^{たば}になっており、数段重なった状態で発見されました。

お金は中国から輸入された渡来銭^{とらいせん}と思われ、現時点では詳しい枚数は分かりませんが、おそらく3,000～5,000枚はあると思われれます。

お金を埋めた理由については、戦乱の世に備えて一時的に地中に保管した「備蓄銭^{びちくせん}説」と神仏にお祈りをするために捧げた「埋納銭説^{まいのうせん}」の2つの説が考えられていますが、今回の埋蔵銭がどちらに当てはまるかは現時点では不明です。ただし、当時上之地区の有力者であった成田氏^{なりた}に関連するものであることは間違いのないと思われれます。





斜め上からの様子



真上からの様子